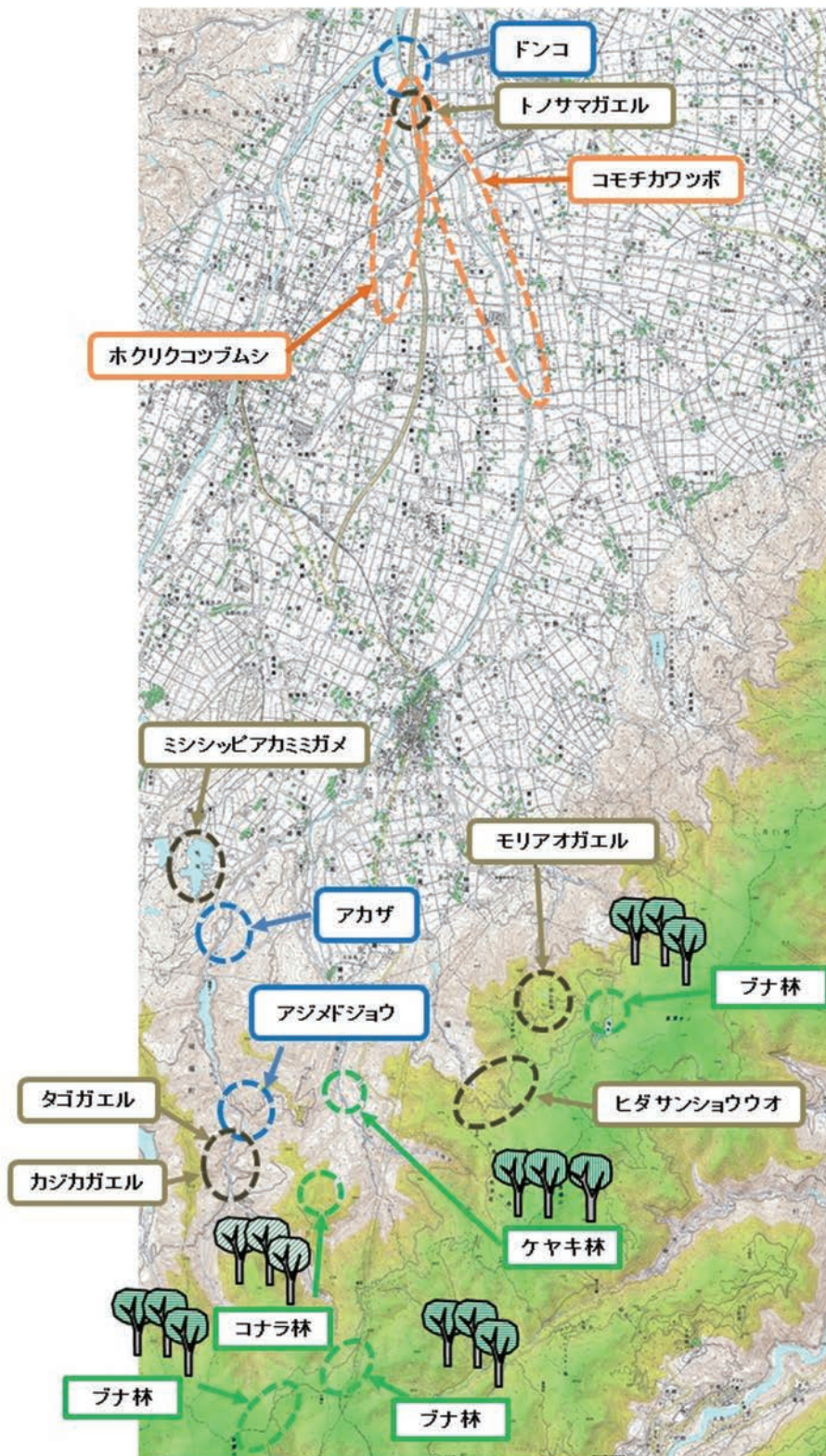


山田川流域の生き物



山田川は、小矢部川（一級河川）の支流である。南砺市城端町と平村の境界にある細尾（ほそお）峠（標高740m）の西を源に、砺波平野の南部を約21km北流し、南砺市富野町上川崎で小矢部川に合流する。

山田川にはたくさんの支流がある。東側には人喰谷（ひとくらいだに）のある二ツ屋（ふたっちゃ）川、夫婦滝がある打尾（うちお）川、縄ヶ池の水が注ぎ込む池川、赤祖父（あかそぶ）溜池がある赤祖父川、南側には桜ヶ池から流れる大井川などである。上流に洪水調節・消流雪用水として県営城端ダムが1992年（平成4年）につくられた。上流域は急峻で地すべりの多い地帯である。下流の平野部は散居村と圃場整備の進んだ大型水田が広がり、水田の水確保用のため池も多い。赤祖父溜池と桜ヶ池は2010年（平成22年）に「ため池百選」に選出され、さらに、県内最初の自然環境保全地域のミズバショウ群生地として知られる縄ヶ池もある。



小矢部川との合流点(左が山田川)



砺波平野（縄ヶ池駐車場より）



城端ダム（平成4年完成）



赤祖父溜池

[調査年と分野]

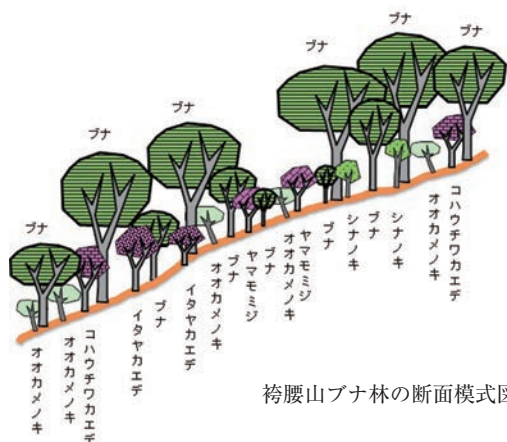
調査は2014年に実施し、調査分野は、植物（植生と森林群落）、底生動物、魚類、両生類・は虫類、ツキノワグマの採食痕跡、ほ乳類である。

森林群落

山田川流域（約83km²）の39%は水田・市街地・ゴルフ場・牧場等で、森林植生は61%であった。森林植生の内、ブナ林が24%で最も多く、次いでコナラ林（19%）とスギ植林（18%）であった。

ブナ林は、流域の南東側、庄川との分水嶺を中心に分布していた。袴腰山の頂上近くには高密度のブナ林が観察された。河川沿いにはケヤキ林やオニグルミ林が見られた。

特徴的な植物は、袴腰山の山頂部に多く見られたアズマシャクナゲ、二ツ屋川近くの林道沿いに見られたメハジキ、カワミドリ、縄ヶ池のミズバショウである。



袴腰山ブナ林の断面模式図



アズマシャクナゲ



カワミドリ

水生昆虫

山田川では、7目44種の水生昆虫が確認されている。最も種数の多いのはカゲロウ類で17種、次いでトビケラ類の7種、甲虫類5種、トンボ類とカワゲラ類が4種となっている。カゲロウ類では、マダラカゲロウ類の種数・個体数が多く、ヒラタカゲロウ類が確認されていない。トビケラ類では、ヒゲナガカワトビケラ、ウルマーシマトビケラ、コガタシマトビケラが多く確認された。



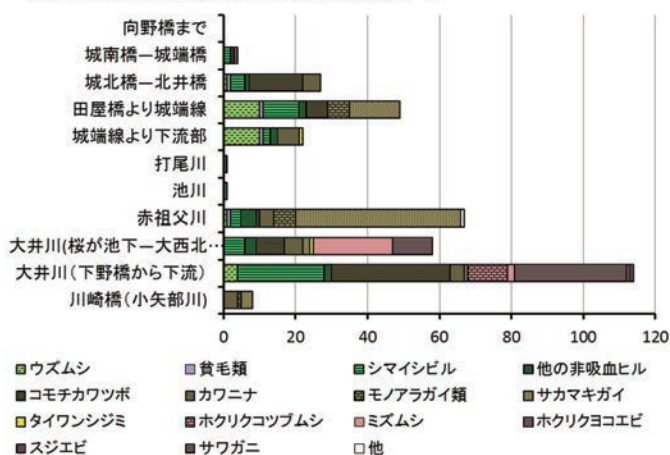
カワゲラ類

底生動物

貝類7種、甲殻類6種、そのほか8種の計21種の淡水種が確認された。優占していたのはシマイシビル、サカマキガイ、コモチカワツボの3種である。

この水系の種類数が県内の他の小河川に比べて多い理由は、富山県では比較的緩慢な流れであることと、流域面積が大きく、多様な支川があることが関係していると思われる。

山田川で確認した底生動物の個体数(上流から河口へ)



魚類

8科20種が確認され、そのうちの15種が純淡水魚で、流れが緩い小矢部川水系上流域の特徴を示した。カワヨシノボリはほぼ全域で確認されたが、下流域でアブラハヤが、上流域ではタカハヤが、中流域では両種が混在していた。富山県西部に限定されるドンコが確認された。また、上流域ではニッコウイワナ、ヤマメ、アカザが生息しており、渋江川より上流域に位置する特徴が示された。中下流域には多数の堰堤があり、河川環境はよく似ていた。

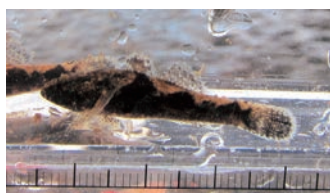
山田川の出現魚類

No.	科名	和名	1	2	3	4	5
			川崎橋	田屋橋	城端橋	ダム下	ダム上
1	アユ科	アユ	11	4	15		
2	サケ科	ニッコウイワナ			10		3
3		ヤマメ				3	26
4	コイ科	コイ	2	1	1		
5		ギンブナ	1		1		
6		ウグイ	4	△		3	
7		オイカワ	1	4	3		
8		アブラハヤ	13	5	17		
9		タカハヤ		6	47	6	84
10		タモロコ	5	5			
11		カマツカ	2				
12	ドジョウ科	ドジョウ	2	1	2		
13		ニシシマドジョウ	3	△	2		
14		アジメドジョウ					16
15	ナマズ科	ナマズ		△			
16	アカザ科	アカザ				1	
17	ハゼ科	オオヨシノボリ		1			
18		トウヨシノボリ			2		
19		カワヨシノボリ	2	14	12	15	11
20	ドンコ科	ドンコ	8				
		個体数 計	54	41	112	28	140
		科数 計	5	5	5	4	4
		種数 計	12	11	11	5	5

△: 聞き取り調査



アカザ

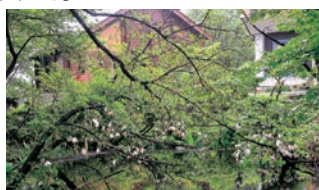


ドンコ

両生類・は虫類

両生類は14種が確認された。平野部の圃場整備された水田にはトノサマガエルが普通に見られ、上流ではヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、タゴガエル、カジカガエルなどの溪流周辺にすむ代表的な両生類が見られた。ため池にはクロサンショウウオ、モリアオガエルが見られた。特に、つくばね森林公園の池では多くのモリアオガエルの卵塊があり、県内最大級の産卵場所となっていた。

は虫類は低山の代表的な6種が確認された。外来種のミシシippアカミミガメは桜ヶ池で見られた。



つくばね森林公園のモリアオガエルの卵塊

山田川流域で確認された両生類・は虫類

	平野部 (～城端)	中流 (城端～ダム)	上流 (ダム～)	林道	周辺の池 と湿地	支流 (田舎)
クロサンショウウオ					○	○
ヒダサンショウウオ				○		
ハコネサンショウウオ						○
アカハライモリ			○		○	○
アズマヒキガエル			○	○		
ニホンアマガエル	○	○			○	
タゴガエル					○	○
ニホンアカガエル		○		○	○	
ヤマアカガエル			○	○	○	○
ツチガエル		○	○		○	
トノサマガエル	○	○		○	○	
シュレーゲルアオガエル		○				
モリアオガエル		○	○		○	
カジカガエル			○			○
両生類の種数	2	6	6	5	9	6
14						
ミシシippアカミミガメ			○		○	
ヒガシニホントカゲ			○			
ニホンカナヘビ	○	○	○		○	
シマヘビ	○	○	○			
ヤマカガシ	○	○	○	○	○	
ニホンマムシ		○	○			
爬虫類の種数	3	4	5	1	3	0
6						

ツキノワグマの採食痕跡、ホ乳類

2014年9月と11月に合計約24kmの林道を調査し、オニグルミ15本、エノキ4本にクマ棚が発見された。山田川流域で調査した合計65本のカキの内、2012年以前にクマが利用したカキは18本(28%)あり、2013年秋は確認されず、2014秋の利用は13本(20%)であった。

ほ乳類は、中型6種(ニホンノウサギ、キツネ、タヌキ、テン、アナグマ、ハクビシン)、大型3種(ツキノワグマ、イノシシ、カモシカ)を確認し、ニホンジカも文献で報告がある。



オニグルミのクマ棚



クマの爪痕

まとめ

山田川の下流から中流域には護岸や堰堤が多く、人工的な部分が多い河川であるため、淡水魚の種類組成は単純になったと考えられる。城端ダムより上流は比較的流れが速く、山地も険しくなり、上流の魚であるニッコウイワナが生息し、カジカガエルやハコネサンショウウオ、ヒダサンショウウオなど溪流周辺にすむ両生類も見られる点で、県東部の水生生物相とよく似ていた。純淡水魚のカワヨシノボリが、全域で出現した。分水嶺周辺は標高1,000mのブナ林で、標高500m付近から丘陵部にはコナラ林とスギ植林が多い。河岸段丘にはケヤキ林やオニグルミ林などがある。2014年、上流域で大量発生したマイマイガにより葉が食害され、初夏に落葉後の冬のような景色となっていた。城端地域は、この年の秋にツキノワグマの人里への出没が相次ぎ、多くカキにクマの爪跡も見られた。マイマイガの食害が秋の木の果の豊凶やクマの人里への出没に与える影響についても、今後、精査する必要がある。